

## 三原市市民協働推進委員会市民公募委員 応募用紙

令和4年12月23日提出

(ふりがな)	( しもむら たくじ )	生年月日	1965年3月20日
名前	下村 拓滋	年齢	57歳
住所	〒 723-0003		
	三原市中之町5-22-2		
電話番号	自宅 ( なし ), 携帯電話 ( 070-5559-5026 )		
職業・勤務先・学校名	affirmativeArchitect 意思決定コンサルタント 薬剤師		
経歴※	塩野義製薬、デンプライ三金に勤務後、東京で組織開発のコンサルタントとして活動。人間社会の課題である自己不安を解消する手法を確立。今、世界を飲み込む人財を育成する三原発グローバル産業を推進中。生活充実講座の広報部長。子育てボランティア、ほっとはーとの提供者。		

※経歴の欄は、これまでの職歴や社会活動の経験、現在実践されている活動、三原市の審議会等の委員の経験などを簡潔にご記入ください。

応募の動機・市民協働のまちづくりについての意見  (400字程度で記入してください。記入欄が足りない場合は、適宜、欄を追加してください。)	今、世界は慣性の法則を変えようとしている。西側諸国が世界に広めて来た経済—金融—政治システムが制度疲労を起こしていることは、現米国大統領ジョー・バイデンさんがロシアの経済制裁を呼びかけた結果から明らか。世界人口の85%は経済制裁に不参加。この事実を今の小学生が知らなくて良いのか？今、すべての大人に問われている。世界が不安定な原因は、欧州発の性悪説起源の文化にある。現状を好転させるのは、世界の文化と文明の最終到達点、日本に住む、日本人のリーダーシップ。牧野伸顕さんが1919年、パリ講和会議で国際連盟規約の前文に人種差別撤廃を含めるように主張し、過半数を得たことを起点にした人類史の流れがある。三原は環瀬戸内文化圏の一部であり、農業と漁業を基盤とした穏やかな文化を育んで来た。どんな集団にも穏やかなパーソナリティと乱暴なパーソナリティがいる。人類史は後者優位から前者優位への転換期。先ずは、三原からこれを可能にする (enabler) 人財を育成し、活躍できる社会システムを構築し、安定稼働させる。

※この応募用紙に記入のうえ、三原市地域企画課に提出してください。応募内容や意見などをもとに選考します。

※提出いただいた個人情報は、委員選考及び委員会運営以外の目的では使用しません。